

**ATLIA**

川口市立アートギャラリー・アトリア

| 年報 | Annual Report |

**2018.4–2019.3**

---

## 目次

基本理念／沿革	2
平成30年度実施事業一覧	3
春の企画展 地域のなかのアートな居場所 Aplus×ATLIA	4
夏の企画展 第7回 新鋭作家展 見しらぬ故郷／なじみの異郷	6
第8回公募 新鋭作家展 二次審査（プレゼンテーション展示公開）	9
秋の企画展 第13回 アーティスト・イン・スクール 樹々あそぶ庭々	10
新春企画展 アートな年賀状展2019	14
ワークショップ／たのしい実技講座／やさしい鑑賞講座／アートさんぽ	16
地域・学校連携（共催）事業	18
アトリア・サポートスタッフ	20
貸しギャラリー事業	21
平成30年度実施事業件数・利用者数一覧	22
発行物／スタッフ	23
利用案内	24

## 基本理念

## アトリアがめざすこと

川口市立アートギャラリー・アトリアは、平成18(2006)年4月にオープンした小さなアート施設です。現代アートの展覧会や地域に根ざした事業を展開し、市民が新しい表現に出会い多様な価値観を共有する場を目指しています。

アトリアの活動には5つの大きな柱があります。「企画展・アートウォッチング」「ワークショップ・アートさんぽ」「講座(たのしい実技講座、やさしい鑑賞講座)」「連携事業(地域連携、学校連携)」「貸しギャラリー事業」。これら5つの柱をゆるやかに結びながら、ものづくりのまち川口におけるアート活動の拠点として、様々な垣根を超えてアートの根をひろげます。

### ■ 企画展 ■ アートウォッチング

現代アートやデザインをはじめ、地域に根ざした企画展を開催しています。アートが内包する多様な価値観を提示すると同時に地域資源をアートの視点から見直すことを試みています。また新鋭作家のための公募展や参加型の企画も行っています。アートウォッチングはアートを能動的に見るための様々な活動を通じて鑑賞の新しい可能性を探るプログラムです。

### ■ ワークショップ ■ アートさんぽ

子どもから大人まで楽しめる様々な企画を年を通して実施しています。造形だけでなく身体表現や鑑賞、まち歩きなども組み合わせたオリジナルのプログラムです。講師はそれぞれの分野で活躍するアーティストや専門家がいます。

### ■ たのしい実技講座 ■ やさしい鑑賞講座

たのしい実技講座では初心者の方から次のステップを目指す方まで気軽にものづくりを学び作品制作をすることができます。やさしい鑑賞講座は研究者や専門家を講師に招きアートや文化について「観る・知る・深める」ための講座です。

### ■ 連携事業(地域連携・学校連携)

地域のアートスポットの情報発信に協力するほか、連携してイベントや展覧会などを実施しています。また学校との連携を図りながらアーティスト・イン・スクール事業を実施。学校向けのギャラリートークなどを行っています。

### ■ 貸しギャラリー事業

市民をはじめとする一般の方々にはアート活動や作品発表の場としてご利用いただくために、館内の展示室およびスタジオを貸出ししています。

## 沿革

## 施設とその成り立ち

大正14年の創業以来、約80年にわたり市民に親しまれてきたサッポロビール埼玉工場が平成15年に閉鎖されました。この工場跡地にリボンシティが生まれ、「まち歩きが楽しい新しい都市空間の実現」を開発方針として、大型ショッピングセンターや住宅街区のほか、アートパーク(並木元町公園)などが建設されました。

緑の木々や芝生などを有するこの公園内にサッポロビール株式会社から建物の寄贈を受け、川口市立アートギャラリー・アトリアが誕生しました。広く張り出したウッドデッキを持つ、集成材を利用した木構造の平屋づくり(一部2階建て)の施設は、人とアートが自然のひろがりのなかでふれあうよう設計されました。

サッポロビール工場の土台を支えた松杭がギャラリーの床材として再利用されています。

## 名前の由来

「アトリア」とは、アート、アトリエ、リリア(※)に由来する造語であり、施設がアート活動を通じた市民の憩いの場となるようにとの願いが込められたものです。

平成17年8月に名称を募集。全国46都道府県から寄せられた1649通(市内からは799通)の応募のなかから厳正なる審査の結果「アトリア」が愛称として採用されました。

※川口総合文化センターの名称「リリア」を指します。



## 平成30年度実施事業一覧

■=企画展 □=企画展関連イベント ■=共催事業  
●=ワークショップ ●=たのしい実技講座 ●=やさしい鑑賞講座 ●=アートさんぽ ●=アートウォッチング

月	事業内容	貸しギャラリー
2018 4月	■春の企画展 地域のなかのアートな居場所 Aplus×ATLIA ▶前期：4月7日～30日 後期：5月2日～20日 □公開制作 ガラスに描く動物園▶4月7日・8日 □Aplus×ATLIAデビュー むげんだいに広がる、いろいろな世界▶4月21日	【スタジオ】二田原英二彫刻展▶3月7日～4月1日
5月	□公開制作 紙コップで巨大彫刻▶5月6日 □一緒につくろう!家族の「カタチ」▶5月13日 □トーク&スタジオツアー アートな出会いとその先へ▶5月19日 ●アートウォッチングカード▶会期中随時参加可 □水鏡ポートレート撮影会—芝川の水を使って▶5月26日・27日 ※夏の企画展関連	【展示室A】深呼吸～うずまく海を抱く▶5月23日～27日 【展示室A・B】大屋喜代子作品展▶5月29日～6月3日
6月	□あなたの「川口」を編みくもる!▶6月3日 ※夏の企画展関連 ■第13回 川口市美術家協会選抜展▶6月20日～7月1日	【展示室A】齋藤元男写真展「世界遺産 遥かなり」▶6月5日～10日 【展示室B】第2回 型染展/高松悦子▶6月5日～10日 【スタジオ】「追悼 藍型染 寿子の布」展▶6月6日～10日 【展示室A】Think Square「水陸両用の生き物展」▶6月12日～17日 【展示室B】大木利子(油彩)展▶6月12日～17日
7月	■川口市小・中・高校硬筆展▶7月4日～8日 □あなたもニットインペーダーに?▶7月12日 ※夏の企画展関連 ■夏の企画展 第7回新鋭作家展 見しらぬ故郷/なじみの異郷▶7月14日～9月2日 □参加型公開制作 ニットインペーダー活動中!▶7月14日・29日・8月11日 □ギャラリートーク▶7月21日・8月19日 □夏休みの宿題応援トーク▶7月26日・8月25日	
8月		
9月	□アーティストトーク▶9月2日 ●アートウォッチングカード▶会期中随時参加可 ■第8回公募 新鋭作家展 二次審査(プレゼンテーション展示公開) ▶9月8日～24日 ■第27回 水道ポスターコンクール入賞作品展▶9月12日～17日 ●名品でたどるヨーロッパのやきもの▶9月22日 ●摺り重ねる木版画▶9月23日・24日	【展示室A】LEE HYUNOK 個展▶9月26日～30日 【展示室B】第1回 グループ 快 作品展▶9月26日～30日 【スタジオ】第29回 川口市工芸展▶9月26日～30日
10月	●川口モダン建築探訪▶10月21日 ■秋の企画展 第13回 アーティスト・イン・スクール 樹々あそぶ庭々 浅見貴子作品展〈日々の樹—生々を描く庭〉 ▶10月27日～12月9日 浅見貴子×川口市立芝樋ノ爪小学校5年生29人 〈校庭の樹—墨の点々で描こう〉成果発表展 ▶11月10日～12月9日	【展示室A・B・スタジオ】星野富弘 花と詩のアート展▶10月3日～8日 【展示室A・B】第1回 金川昌司写真倶楽部写真展▶10月10日～14日 【スタジオ】ラッキーワイド造形の世界2018▶10月10日～14日 【展示室A・B】第53回 川口市小学生図画コンクール入賞作品展 ▶10月16日～21日
11月	●アートウォッチングカード▶会期中随時参加可	
12月	□アーティストトーク▶12月1日 ■第53回 川口市特別支援学級合同作品展▶12月12日～16日 ●開運!!新聞紙とガムテープで宝船▶12月22日 ●変身!カラフルねんどで「みのむしごっこ」▶12月24日	【展示室A・B】第13回 小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会 ▶12月18日～24日
2019 1月	■新春企画展 アートな年賀状展2019▶1月8日～20日 □アートなお正月あそび▶1月14日 □紙漉きで描く和紙アート▶1月19日・20日	
2月	■中学生のART CLUB展▶1月26日～2月3日 ■川口市小・中・高校書きぞめ展▶2月6日～11日 ■川口の図工美術まなび展▶2月16日～24日	
3月	■春の企画展 絵画展...なのか?▶3月21日～5月12日 □会期前の公開制作▶3月16日・17日 □アーティストトーク▶3月21日 □公開制作 コチラとムコウ in 川口▶3月23日 □コチラとムコウ in 川口▶3月24日 ●絵画の現在(いま)を楽しむ▶3月29日 ●アートウォッチングカード▶会期中随時参加可	【スタジオ】「川口で楽しく暮らす会」15周年記念 平家物語にちなむアートとパフォーマンス▶3月9日・10日

※2018年4月1日～2019年3月31日時点の実施事業を一覧にしています。



春の企画展

# 地域のなかのアートな居場所 Aplus x ATLIA

前期：2018年4月7日(土)～30日(月・祝) 後期：5月2日(水)～20日(日)

観覧料：一般300円(会期中何度でも再入場できるパスポート制)  
高校生以下無料。65歳以上の方、20名以上の団体、障害者手帳をお持ちの方と付添の方1人は半額。

春の企画展では、現代アートシーンの一端を様々なテーマで切り取り紹介してきました。本展では、いわゆる「地域アート」のひとつの事例として、川口市内にある閉校した中学校(旧川口市立芝園中学校)の校舎を制作拠点として利用しているアーティスト集団「一般社団法人アプリュス」に焦点をあてました。川口市教育委員会が2014～18年度に行った芝園中学校アトリエ利用事業によって出発した「アプリュス芝園

スタジオ」は、町内会との連携やオープンスタジオの実施など、アーティストの制作拠点である以上に地域全体が文化的成長のきっかけを得る場所として機能すべく様々なプログラムを試行してきました。2018年度いっぱいまで終了した事業を振り返る機会でもあった本展では、関係の深いアーティストたち(運営メンバー、スタジオ利用者、運営協力者など)の作品展示を中心に、公開制作、ワークショップ、トーク&スタジオ

企画協力／一般社団法人アプリュスメンバー  
(奥村拓郎、小野美穂、高田純嗣、柳原絵夢)  
担当スタッフ／秋田美緒  
グラフィックデザイン／古谷悠子  
記録／長田水紀

ツアーなども行い、市のアートシーンの先端を様々な方向から伝えることを目的としました。展覧会場は前期・後期ではほぼすべての作品を入れ替えるほど多くのアーティストが出品し、各イベントも近隣の方を中心に多くの参加者を得ています。会期終了後にはにぎやかに行われた本展の様子を記録した冊子を発行しました。



M.O.

## 一般社団法人 アプリュス

主に若手アーティストによる団体。スタジオのシェア・制作の支援を通して、アーティストを志す人や近隣地域とも連携しながら「アートを生み出す場所」をつくることを目的に活動を続けている。拠点として、芝園スタジオ(2019年9月閉鎖、後に芝スタジオに移転)のほか、朝霞スタジオ、南千住オフィスを構える。

### ▼出品作家

【前期】  
岡崎詩をり(絵画、インスタレーション)、奥村拓郎(彫刻)、佐藤そのえ(絵画)、須恵朋子(日本画)、スズキナツコ(絵画)、高田純嗣(彫刻)、田口輝彦(木工)、中村真里(版画)、NUB creative works(家具)、ネモトサトコ(絵画)、藤原彩人(彫刻)、村山之都(絵画)、矢口佳那(絵画)、山田市庭(家具)、美大・芸大卒業生支援事業参加者(飯泉祐樹、辛遊里、鈴木理沙)

【後期】  
生駒梨奈(版画)、石黒昭(現代美術)、今井みのり(彫刻)、小野美穂(陶芸)、小俣英彦(彫刻)、川崎研(家具)、鈴木のみ(現代美術)、田神光季(絵画)、手塚元彦(彫刻)、西澤知美(現代美術)、原田郁(絵画)、fancomi(イラストレーション)、藤原京子(インスタレーション)、細野昂太郎(現代美術)、森良浩(インスタレーション)、柳原絵夢(彫刻)、美大・芸大卒業生支援事業参加者(飯泉祐樹、辛遊里、鈴木理沙)

### 〇〇〇 関連イベント



#### 公開制作 ガラスに描く動物園

出品作家を身近に感じていただくために行った前期展のオープニングイベントです。講師がガラスに特殊な画材で絵を描き、鑑賞者もそこに参加しました。外からも見えるスペースに大きく描かれた動植物はもちろん、楽しそうに制作するアーティストにひきつけられ、未就学児もたくさん参加してくれました。成果は前期展会期中に作品として展示されました。

開催日時／4月7日(土)・8日(日) 各日13:00～17:00  
参加者／合計233人  
講師／村山之都・スズキナツコ・矢口佳那(絵画・本展出品者)  
参加費／無料(観覧料別途)

#### ワークショップ Aplus x ATLIAデビュー むげんだいに広がる、いろいろな世界

ワークショップがはじめての参加者でも気軽に「デビュー」できるように考えたワークショップです。おはながみを会場いっぱいひろげ、埋もれたり、舞わせたり、くしゃくしゃにしたりなど、直感的な造形・空間遊びをしました。水を加えると質感が大きく変わって驚く参加者も。色水や立体物をつくることにも発展し、素材の面白さを全身で味わう機会となりました。成果は前期展会期中に作品として展示されました。

開催日時／4月21日(土)  
第1回 10:30～12:30・第2回 14:00～16:00  
参加者／年中・年長 第1回 8人・第2回 7人  
講師／玉掛由美子、住谷栄子(アートワークセラピスト)  
参加費／500円



#### 特設コーナー アートウォッチングカード&ボード

気に入った作品や気になる作品について小さなカード(付箋紙)に書き、掲示板(ボード)に貼り付ける鑑賞促進ツールです。鑑賞者は自分の視点を書いて表明するだけでなく、他者が書いたそれを読むことで新しい発見ができます。また、今後の制作の糧になるよう、集まったカードは後日アーティストにも届けられました。

開催日時／会期中随時  
参加者／合計1,277枚分  
参加費／無料(観覧料別途)

### 公開制作 紙コップで巨大彫刻

出品作家を身近に感じていただくために行った後期展のオープニングイベントです。紙コップをタワー状にした講師の作品の周囲で、参加者も同じ材料・手法で制作しました。積んでいくだけの単純な作業ですが、ちょっとした衝撃で倒れる・他者とぶつかってしまうなどのトラブルも。楽しさも苦労もある制作の一部を体験しました。成果は後期展会期中に作品として展示されました。

開催日時／5月6日(日) 13:00～17:00  
参加者／63人  
講師／柳原絵夢(彫刻・本展出品者)  
参加費／無料(観覧料別途)



#### トーク&スタジオツアー アートな出会いとその先へ

アーティストが地域のなかで拠点を開くことをテーマとしたトークセッションの後、芝園スタジオ現地を見学に行くバスツアーを行いました。有識者をゲストにむかえたトークセッションでは、アーティストが拠点を保っていく難しさや地域との関係、団体として活動することで見える可能性などが語られました。現地ツアーでは、制作中のアーティストが作品や制作環境について語ってくれるなど、出品者を身近に感じる機会になりました。外から校舎を見ただけではわからなかった教室の様子に目を丸くする参加者もあり、身近なところで起きているけれど知らなかった活動を意識するきっかけにもなったようです。

開催日時／5月19日(土)  
14:00～ 展覧会場(アトリア)にてトーク  
15:30～ 専用バスにて移動  
16:00～ 芝園スタジオ内を見学  
参加者／47人  
案内／アプリュス芝園スタジオメンバー  
ゲスト／池田修(BankART1929ディレクター)  
土屋貴哉(現代美術家／川口市立芝園中学校卒業生)  
参加費／無料(観覧料別途)



#### ワークショップ 一緒につくろう! 家族の「カタチ」

親子で床に寝転び、互いの全身の輪郭をダンボールに写した後、切り取って裝飾し会場にある家具などに設置しました。様々な感情を表すポーズをとる準備運動では少々照れていた参加者も、いつしか夢中になって全身を動かす、等身大の大きな作品を完成させました。最後は作品と同じポーズで記念写真を撮影。母の日に家族の思い出が増えるよう、コミュニケーションを大切に考えたワークショップです。成果は後期展会期中に作品として展示されました。

開催日時／5月13日(日) 10:30～12:30  
参加者／年中～小学生+保護者のペア 6組  
講師／玉掛由美子・住谷栄子(アートワークセラピスト)  
協力／川崎研(家具)・玉掛理人(写真)  
参加費／500円

夏の企画展 新鋭作家展 第7回優秀者 力石咲・津田隆志

# 見しらぬ故郷／なじみの異郷

2018年7月14日(土)～9月2日(日)

観覧料：一般300円（会期中何度でも再入場できるパスポート制）  
高校生以下無料。65歳以上の方、20名以上の団体、障害者手帳をお持ちの方と付添の方1人は半額。

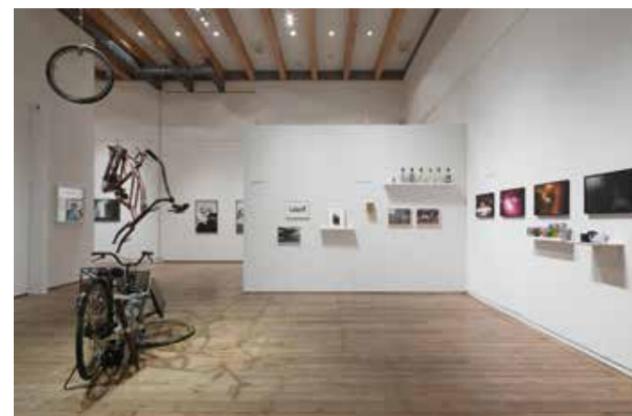
担当スタッフ／三井知行  
グラフィックデザイン／大崎善治（SakiSaki）  
記録／末正真礼生  
記録集印刷・製本／株式会社グラフィック



M.S.



M.S.



M.S.

〈新鋭作家展〉は市の文化芸術振興と新鋭作家の発掘・育成を目的とし、川口で実施したいプランを広く募集しています。審査で選ばれた優秀者は1年近くかけて地域リサーチや参加型のイベントなどを行い、当ギャラリーと協働で展覧会をつくります。第7回審査で選出されたのは力石咲氏と津田隆志氏の2名。両者とも既に実施実績のあるプランから出発しましたが、川口のリサーチが進むに従い大きく発展・変化し、出品作家にとっても当ギャラリーにとってもチャレンジングなものとなりました。展覧会ではその経過もパネルなどで提示しました。力石氏は自らを「ニットインバーダー」と呼び、様々なものを毛糸で編みくむことで外見に変化を生じさせ、日常を見直し新たな気づきをもたらす活動をしています。これまでの野外展開中心の方法を改め、リ

サーチを通じて作家が「川口らしい」と感じたものを館内に持ち込み、鋳物の溶鉄が放つ光をイメージした色の毛糸で編みくむみました。津田氏の「mirror/river」シリーズは、汚れた都市河川の水面に美しく反射する河岸の風景を撮影した写真作品です。フィールドワークを重視する作家は、取材する中で見つけたり気づいたりした物事も作品化し、メインとなる写真作品とは別の空間にインスタレーションとして展開し展示を充実させました。両者ともタイトル通り、なじみのなかった土地にリサーチを重ね、市民も見ることがないような「川口像」を提示しました。それは地域の枠を越えて多くの人に見慣れた日常に対する新鮮な気づきをもたらしたのではないのでしょうか。

## ▼出品作家

### ちから いし さき 力石 咲

1982年埼玉県生まれ。ニットの構造や有機的な印象に注目し、主に既存のものを編みくむ手法により制作。日常的なものや風景に変化を与え、新しい気付きや活発なコミュニケーションをもたらす活動を展開。

### つた だか し 津田 隆志

1983年愛知県生まれ。広く正しいとされる概念への違和感を出発点に、フィールドワークの手法を用いて写真を中心とした制作を行う。既存概念にとらわれず自分なりに世界を読み解いていく過程を作品化する。

## ○○○ 関連イベント



### 水鏡ポートレート撮影会—芝川の水を使って

都市風景の映り込んだ芝川の水面を撮影した出品作品《mirror/river\_旧芝川》への理解を促すため、水面を模した水鏡に映り込んだ参加者の肖像を撮影しました。芝川の水を張った容器に反射した参加者の姿は、しかし当人には見えません。撮影後の確認画像にいつもと少し違う自分の姿を見出した参加者は驚いたり感心したり。撮影した肖像の一部は展示され、鑑賞者の興味を引くとともに、《mirror/river\_旧芝川》へのよい導入ともなりました。また参加者には会期中の来館により撮影データとプリントをプレゼントしました。

開催日時／5月26日(土)・27日(日) 各日11:00～17:00  
参加者／合計70人 撮影／津田隆志(出品作家) 参加費／無料

### あなたの“川口”を編みくむもう！

出品作家の制作手法を身近に感じ、また改めて川口について考えながら、インスタレーションの一部を制作・素材提供するものとして開催。参加者各自が「川口らしいと思うもの」(鋳物製品など)を持参し、毛糸を編んだひもを用いて編みくむみました。成果物は会期中インスタレーションの一部として展示公開(会期終了後の来館により参加者に返却)。作品の中に作者以外の視点が入り込むことで、提示される「川口像」がより重層的なものになりました。

開催日時／6月3日(日) 13:30～15:30  
参加者／大人7人・子ども4人  
講師／力石 咲(出品作家)  
参加費／無料





### あなたもニットインベーターに？

出品作家とコミュニケーションをとりながら展示作業に一部参加することで、その作品と制作手法を身近に感じる会期前のイベント。スタジオ内に配置された、カ石氏の考える様々な「川口らしいもの」を、毛糸を編んで作ったひもを用いて編みくむみ、その姿を見たことのない新鮮なものに変えていきました。

開催日時/7月12日(木)  
10:00~17:00  
参加者/8人  
講師/カ石 咲(出品作家)  
参加費/無料



### 参加型公開制作 ニットインベーター活動中!

作品に対する理解を促進し、制作手法を身近に感じられるイベントとして、カ石氏がインスタレーション制作作業の一部を会期中に公開。希望する鑑賞者はアーティストと一緒に編みくむめることとしました。比較的可的な作業であるため、子どもや親子などの参加も多く、楽しみながらアーティストや作品と親しんでいました。

開催日時/7月14日(土)・29日(日)・8月11日(土・祝)  
各日10:00~12:00・13:00~17:30  
参加者/合計52人  
講師/カ石 咲(出品作家)  
参加費/無料(観覧料別途)



### アーティストトーク

出品作家がこれまでの制作活動を踏まえながら、出品作品や本展に至るまでの歩みなどについて語る、主に一般(大人)対象のトークイベント。津田氏は通常の順路とは逆に、メインとなる「mirror/river」シリーズから水鏡の肖像、川口での経験を作品化したインスタレーションと遡ることで、川口・芝川での経験と作品の関係を分かりやすく解説。カ石氏はこれまでの活動や今回の全体的なコンセプトを先に説明し、その後各々の「川口らしいもの」を語ることで、自分の活動と川口との関係を丁寧にひもときました。

開催日時/9月2日(日) 14:00~15:30  
参加者/12人  
講師/津田隆志(出品作家)・カ石 咲(出品作家)  
参加費/無料(観覧料別途)



### 夏休みの宿題応援トーク

作品を見るヒントが記されたミニブックを手に、参加者とスタッフが対話しながら展示会を鑑賞。美術館レポートなど夏休みの宿題に役立ててもらいました。津田氏の作品では、写真に写っているもの、その風景の中で起きていることを読み解きながら、実像と虚像が入り混じる世界の不思議さを味わいました。またカ石氏の作品では、編みくむまれた「川口らしいもの」をひとつひとつ確認しながら、普通の状態との印象の変化、編みくむまれたもの同士のつながりなどを見出しました。発見したことを他者と伝え合うこととお互いの考えを引き出し、作品に親しむことができました。

開催日時/7月26日(木)・8月25日(土) 各日14:00~15:00  
参加者/主に小中学生 合計9人  
案内/学芸スタッフ  
参加費/無料(観覧料別途)



### ギャラリートーク

展示会担当者が企画意図や出品作家・作品などについて分かりやすく説明する主に一般向けのトークイベント。出品作家の伴走者ともいえる担当者ならではの、各出品作家とのこの1年間の取組みを振り返ることで得られた視点を交えながら展示の解説をしました。

開催日時/7月21日(土)・8月19日(日)  
各日14:00~15:00  
参加者/合計12人  
案内/学芸スタッフ  
参加費/無料(観覧料別途)

### 特設コーナー アートウォッチングカード

鑑賞活動促進を目的として自由にコメントが書けるカードを配布し、集まったものを公開しました。身近な物事を愛容させる作品への驚きを伝える声や、自身が住むまちへの愛着を再認識する声、「川口のことをもっと知りたくなった」といった感想が、鑑賞者から数多く寄せられました。

開催日時/会期中随時  
参加者/合計497枚分  
参加費/無料(観覧料別途)



# 第8回公募 新鋭作家展 二次審査

(プレゼンテーション展示公開)

2018年9月8日(土)~24日(月・祝)

観覧料: 無料

次年度の新鋭作家展に出展する作家を選出するための二次審査に提出されたプレゼンテーションをひろく公開するもの。一次(ポートフォリオ)審査を通過した10組に限られたスペースの中に作品や資料などを展開しました。本企画は人・場所・地域とのかかわりを求めるものであるため、作品そのものだけでなく関連して行うプロジェクトやワークショップについての構想も提出され、個性的な内容が多く並びました。優秀者として選ばれたのは上坂 直氏・運沼昌宏氏の2人。上坂氏は積み上げた衣装ケースを集合住宅に見立て、その中に「暮らし」を収納するインスタレーションによって、美しく整った外観からは見えない都市での人間らしい生活を表現します。運沼氏は多文化共生・多国籍といった地域の特性に興味を持ち、様々な文化的背景を持つ個人の物語を取材して絵本や似顔絵・パラパラ漫画などで表現するプランを提示しました。

選出後、プランをスタッフとともにブラッシュアップし、事前に取材やイベントなどを経て翌年夏の〈新鋭作家展〉にてその成果を発表します。

### 一次審査

(ポートフォリオ審査)・・・66人(組)

### 二次審査

(プレゼンテーション審査)・・・10人(組)

都築崇広・上坂 直・遠藤夏香・  
嘉 春佳・祐源紘史・高畑紗依・  
宙宙・身体0ベース運用法・  
運沼昌宏・海老原祥子(受付順)

### ▼審査委員

#### 前山 裕司

新潟市美術館館長・美術評論家

埼玉県立近代美術館在職時から現代美術に関する企画展で若手作家の発掘を行いつつ、ガイド・ボランティアの立ち上げを行うなど教育普及分野にも力を注ぐ。



#### 村田 真

美術ジャーナリスト・画家

ひろい視野で国内外のアートシーンを取材し、平易な言葉で伝える記事を執筆するジャーナリスト。また画家としては戦争画に関する研究を行っている。慶應義塾大学、実践女子大学、東京造形大学などで講師を務める。

#### 住友 文彦

アーツ前橋館長

国際性・地域性を生かした企画を多く手がける。あいちトリエンナーレ2013キュレーター、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」共同キュレーター、ヨコハマ国際映像祭2009ディレクターなどを歴任。

秋の企画展 第13回アーティスト・イン・スクール

# 樹々あそぶ庭々

浅見貴子作品展〈日々の樹—生々を描く庭〉

2018年10月27日(土)～12月9日(日)

浅見貴子×川口市立芝樋ノ爪小学校5年生29人  
〈校庭の樹—墨の点々で描こう〉

授業期間／2018年9月～11月(全5回)

成果発表展／2018年11月10日(土)～12月9日(日)

担当スタッフ／秋田美緒  
グラフィックデザイン／中新 (Lallasoo Poopo Lab.)  
協力・記録／金田幸三・後藤 天

秋の企画展では「アーティスト・イン・スクール」を基軸に、その講師の制作活動や作品を紹介する展示と、授業の成果発表展とを併せて行いました。

川口市内の小中学校にアーティストやデザイナーを講師として派遣し特別な授業を行うアーティスト・イン・スクールは、およそ1か月半の活動の中で講師の考え方・制作に深く触れ、ともに創造力・想像力・コミュニケーション力を育むことを目的として例年1校1学年を対象に行っています。成果物は当ギャラリーに展示し、経過をまとめた報告書を作成。2006年の開館以来継続してきたプログラムです。

第13回をむかえた本年度は講師に浅見貴子氏を起用、川口市立芝樋ノ爪小学校5年生29人が授業に取り組みました。「和紙に墨

で描く」「身近な樹木に向き合って描く」といった講師の制作と同じ過程を体験し、実物を目の前にしてじっくりと観察する面白さや墨の滲み・和紙の質感を味わいました。展示会では講師の作品を「日々の樹—生々を描く庭」と題して先行公開し、会期中盤の成果発表を交えて会場を拡大しました。児童にとってはアーティストと同じ空間に作品を並べることで自分の表現に自信を得、アーティストにとっては児童との共同発表でこれまでにない展示空間が提示できる機会となります。また鑑賞者にとっては学校・美術教育の新しい試みを身近に感じ、さらに挑戦を続けるアーティストの表現に出会う場としても機能しました。また、会場内ではアートウォッチングカー

ドを配布し、講師や児童へのメッセージや作品の感想を鑑賞者からコメントしてもらい、595枚もの参加をいただきました。他者の気づきを知り、また深く作品を味わう視点を獲得することを目的とするほか、会期終了後には講師や児童に届けることで事業全体を振り返るツールにもなっています。

▼出品作家・講師

## 浅見貴子

画家

1964年埼玉県秩父市生まれ、在住。多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業。近年は和紙の裏側から樹木を描いた作品が目される。豊田市美術館(愛知)・大原美術館(岡山)などに国内外に作品が収蔵されている。「第7回東山魁夷日経日本画大賞」にて大賞受賞(2018年)。



K.K.

○○○

浅見貴子×川口市立芝樋ノ爪小学校5年生29人  
〈校庭の樹—墨の点々で描こう〉成果発表展

開催日／11月10日(土)～12月9日(日)  
観覧無料



K.K.



K.K.



K.K.

アーティスト・イン・スクールの成果発表として館内で展示を行い、ひろく公開したものです。児童たちが制作した作品は、講師とコーディネーターのアイデアによって、制作中の雰囲気そのままに伝えられるよう画板に貼ったまま展示台に立ち上げました。様々な方向をむき高さもことなる展示台・作品の合間を回遊するように進むと、まるで庭を散歩しているような感覚に。樹木と校庭をテーマとした内容にふさわしい立体的な空間となりました。同時に授業中の様子を映像・パネルにまとめて公開することで、臨場感を持って授業中の様子を知っていただけるように工夫しました。講師や児童たちの声が聞こえることによって教室の空気がそのまま展示室に移ってきたように感じられ、より賑やかで楽しい展示となりました。



K.K.

○○○  
アーティスト・イン・スクール  
授業内容・経過



K.K.

1 9月28日(金)  
点々を描こう—導入と試し描き

自己紹介と授業内容の説明として、講師が自身の作品を紹介しました。樹木の作品を多く見せながら、これから同じような和紙と墨をつかって校庭の樹を描くと説明し、画材の実験を行うことに。講師の作品にも見られる墨による点々の表現をなぞりながら、水を多く混ぜてみたり、点を重ねて描いてみたりと、意外な染み込み方をする墨の様子を観察しながら筆を進める児童たち。先端を細く削った割り箸をペン代わりにするなど、細かな表現にも挑戦し、まずは道具の使い方や特徴を覚えました。



K.K.

4 10月26日(金)  
樹々はことなる—墨と和紙で制作

複数枚の作品を仕上げにかかる児童たちは、筆だけでなく割り箸ペンの使い方もなれ、細やかな表現ができるようになりました。同じ樹木を描いていても、他のクラスメイトに影響されすぎることなく、それぞれ全く異なる個性を持つ作品が生まれていきます。なんとか完成させた作品を画板にはさんで提出した児童たちに、講師は展示会の会場で次回の授業を行う、とお話しました。放課後、講師はその作品を展示するための準備を行い、展示会の会場に設置しました。

2 10月5日(金)  
それぞれの樹—校庭でのスケッチ

モデルとなる樹木を探しに校庭へ出て、スケッチを行いました。和紙に直接やわらかな鉛筆で描きます。同時に消しゴムはつかわないように指示した講師は、失敗してもその線を生かして、自分なりの樹木を描くように伝えました。小さな紙・大きな紙を抱えながら校庭に座り込むようにして真剣にスケッチを行う児童たち。講師は全員のもとへ足を運んで具体的助言を行いました。1時間じっくり行ったスケッチの後はずべての作品を並べ鑑賞し、それぞれに注目したポイントがことなることを楽しみました。



K.K.



K.K.

3 10月11日(木)  
失敗は面白い—墨と和紙で制作

スケッチの上から墨を重ね、樹木を描いていきました。最初は勢よく制作に取りかかった児童たちですが、時間が進むにつれ、和紙の思わぬ場所にはたりと墨が落ちたり、水を混ぜすぎたりと少々慌てる様子も見られるように。休み時間をはさんで、講師はいくつかの作品を取り上げながら、「これは勢いのある太い線と、ざらざらした細い線のリズムが良い」「細かな点をたくさん打ってかたちをしているところがポイント」「偶然かもしれないけれど滲みが心地良い」など、具体的に表現の特徴を見つけ共有していきます。講師の積極的な肯定に導かれて自信をつけ、失敗を受け入れながら作品にむかっていく児童たちの様子が見てとれました。



K.K.

5 11月15日(木)  
思い切って振りぬけ—まとめと振り返り

展示会会場で全員の作品を鑑賞し振り返りました。展示中の作品には、講師からのコメントが書かれたカードが貼られており、それを記念に持って帰ります。また、小さな作品は1枚の大きな共同作品に仕立てられ、その前でまとめを行いました。少し難しいこともあったという児童の感想を受け、「美術はそれぞれの取り組み方がかかわっている、正解がないもの」と言った講師は、続けて「思い切ってやってみて、失敗してもそこから学べば良い」とまっすぐな言葉を贈りました。

○○○  
浅見貴子作品展  
日々の樹—生々を描く庭

開催日/10月27日(土)~12月9日(日)  
観覧無料



K.K.



K.K.

浅見氏が1998年に実物の樹木をはじめ描いた作品から最新作まで10点を並べた展示会です。回顧的に講師の画業をたどる内容としただけでなく、構想段階のスケッチもあわせて公開することでより深く表現を味わえる工夫をしました。独特のリズムを持って描かれた点や線は、和紙の裏側から滲み出した墨によるもので、余白を気持ちよく残した大型の作品からはその息づかいが聞こえてくるようなひろがりを感じられます。窓の外から見える公園の景色も呼応し、まるで庭にいるような気持ちのよい空間となりました。樹木のスケッチ、点々と見える筆の運びなどはアーティスト・イン・スクールでの授業内容にもつながっています。

○○○  
関連イベント

アーティストトーク

作品についてギャラリーツアー形式で解説したトークイベントです。近現代美術を専門とするゲストをインタビューにむかえ、講師が自作を中心にお話ししました。樹木の枝ぶりや幹のかたちをそのままなぞるように、筆の動きを考えるとという講師。スケッチ中の動きをジェスチャーで表現すると、ゲストや参加者から感心の声や笑いが起きるなど、終始あたたかな雰囲気の中で作品を身近に感じられる機会となりました。

開催日時/12月1日(土) 14:00~15:30  
参加者/44人  
参加費/無料  
出演/浅見貴子(本事業講師)  
ゲスト/光田由里(DIC川村記念美術館学芸員)  
参加費/無料



K.K.

# アートな年賀状展 2019

2019年1月8日(火)~20日(日)

観覧料：無料

担当スタッフ/小野寺 茜  
グラフィックデザイン/芝崎 曜子

○○○  
関連イベント



応募いただいたすべての年賀状を一堂に展示する〈アートな年賀状展〉。誰もが気軽に出品できる本展は毎年継続され、干支が一巡する12回目となりました。全国から集まった492通の作品には、威勢の良い「亥（いのしし）」や心あたまる冬の風物詩などが、水彩画や版画、落ち葉の貼り絵などで多彩に表現され、1枚1枚の工夫に感心しながら熱心に見入る鑑賞者の姿が見られました。また会場には、前年末に行ったワークショップ「開運!!新聞紙とガムテープで宝船」および「変身!カラフルねんどで「みのむしごっこ」」の成果物もあわせて展示。会期中に行った「アートなお正月あそび」や、ワークショップ「紙漉きで描く和紙アート」にも幅広い年齢層からの参加があり、当ギャラリーでアートに親しむ多くの利用者とともに新たな一年のスタートをきりました。



## アートなお正月あそび

事前申込なし・出入り自由で誰もが楽しめる恒例イベント。お正月にちなんだゲームやミニ工作などの体験広場を開き、開始と同時に多くの家族連れが入場しました。子どもの背丈ほどもあるダルマ落としはとりわけ小学生が熱中し、リピートすることによって上達していきました。ボールをうちわで扇いで転がすゲームは、うちわをまだ上手に使えない未就学児も奮闘し、ボールコントロールの難しさにめげることなく最後までやり遂げていました。小さな掛け軸をつくる工作コーナーでは家族や友達同士でテーブルを囲み、完成した作品を掲げて記念撮影。参加賞の折り紙コマも好評で、参加者それぞれ、色合いを吟味してから嬉しそうに持ち帰ってくれました。本イベントの設えと発案は、当ギャラリーのサポートスタッフや職場体験に訪れた中学生によるもの。会場に満ちた賑やかな声と笑顔とともに、スタッフ一同大きな達成感を得ることができました。

開催日時/1月14日(月・祝)  
14:00~16:00  
参加者/152人  
案内/サポートスタッフ・学芸スタッフ  
参加費/無料



## ワークショップ 紙漉きで描く和紙アート

紙漉きを身近に手軽に楽しんでもらうためのワークショップ。対象を小学生と大人に分け、原料づくりと「描く紙漉き」をしました。まずは原料づくり。楮（こうぞ）の木の皮をむき、白い繊維を叩いて細かく砕き、水洗いをして、ねり（繊維を水中に分散させるもの）を混ぜ合わせます。ベースとなる白い紙を漉く作業では、原料を簾（す）に流し込み、水が落ちるまで待ちます。これを何度かくり返し厚みが均一になったら、色のついた原料を使って参加者が自由に描いていきます。紐で境界をつくって流し込み、ひろい面で色付けをしたり、少しずつ繊維をのせて絵を描いたり、高いところから原料を落として模様をつくったり。漉いた紙は乾燥させるため板張りします。乾くとまた違った表情を見えますが、それは後日のお楽しみ。世代を問わず楽しめる、紙漉きの表現が体験できる機会となりました。

開催日時/1月19日(土)・1月20日(日) 各日13:30~16:30  
参加者/小学生12人・18歳以上10人  
講師/國高ひでき(日本和紙造形研究所)

日本和紙造形研究所代表、和紙造形アートスクール 学長、國高和紙造形工房代表。従来の紙漉きとは異なる、アートのための新しいKAMISUKIとして「和紙造形」を広く社会に発信するための活動を積極的に展開中。

参加費/500円





## ワークショップ

年間を通して多くの方楽しんでいただける様々なワークショップを開催。  
造形あそびに加えて身体表現や鑑賞なども組み合わせたオリジナルのプログラムを実施しています。

### 開運!!新聞紙とガムテープで宝船

新年を前に、宝船という縁起の良いモチーフを制作し、季節感を味わうワークショップ。新聞紙とガムテープを素材として、身体をいっぱいにつかって取り組みました。会場には500日分となる大量の新聞紙。参加者は、講師とともに「新聞紙の海でかくれんぼ」や「1分間新聞紙雪合戦」の遊びで素材へと親しみ、そのまま勢よくグループ制作へと突入。あらかじめ準備した骨組みに新聞紙を巻きつけ、ガムテープで固定し、全員で協力して船体をつくりました。更に一人ひとり好きな色のテープでパーツをつくり貼り合わせたカラフルな帆が加わります。最後には思い思いの「宝物」としてペットや楽器、キャラクターなどを個人でつくって船に乗せ、オリジナルの宝船が完成しました。成果物は〈アートな年賀状展2019〉にて展示され、会場をにぎやかに彩っていました。



開催日時/12月22日(土) 13:00~15:00  
参加者/小学生 12人  
講師/関口光太郎(造形作家)

教員を務める傍ら造形作家として活動。川崎市岡本太郎美術館、21\_21DESIGN SIGHT、広島市現代美術館、アーツ前橋などで発表。新聞紙とガムテープを主な素材とし立体作品を制作している。また同素材を用いたワークショップを多数開催。  
参加費/500円



### 変身!カラフルねんどで「みのむしごっこ」

カラーの紙粘土を用い、視覚も触覚も刺激される創作活動を楽しむワークショップ。今回は冬の虫として知られている「みのむし」をテーマに、ユニークな衣装をつくりました。まずは、カラー紙粘土をちぎったり、まるめたり、のべしたり。それを床に敷いたネットに並べ、かけ声にあわせ全員で粘土の上を転がりました。次は踏んでネットに圧着。裸足でつぶした感触に、参加者から歓声があがります。最後にランウェイのように落ち葉を配置し、ファッションショーを行いました。自分で制作した衣装を着て変身!ポーズを決めて行進です。季節感を味わいながら身体をたくさん動かした参加者は、色とりどりの衣装に身をつつみ元気がいっぱい。落ち葉の香りも効果的に働き、様々な感覚を刺激するイベントとなりました。その後、作品は〈アートな年賀状展2019〉で展示され、新年を迎える会場を彩りました。

開催日時/12月24日(月・祝) 10:30~12:30  
参加者/年中・年長 20人

講師/あとりえこも(柴山京子・岩崎幸之助/彫刻家・造形教室主宰)  
子どもたちが様々な素材・身体、指や足などを使う制作を通して、自己表現が成長の過程と共に素直に造形に表れてくるような場を目指す。各々が彫刻家としても作品を発表。  
参加費/500円

■企画展関連ワークショップについては該当ページをご参照ください。

名称	開催日	ページ	
Aplus×ATLIAデビュー むげんだいに広がる、いろいろな世界	4月21日(土)	①10:30~12:30 ②14:00~16:00	P.5
一緒につくる!家族の「カタチ」	5月13日(日)	10:30~12:30	P.5
紙漣きで描く紙アート	①1月19日(土) ②1月20日(日)	13:30~16:30	P.15



## たのしい実技講座

各分野のつくり手を講師に招き、気軽にものづくりを学んだりアート作品を制作したりするための講座です。



### 摺り重ねる木版画

木版画の多様な表現の中でも特に「摺り」に焦点を絞り実施しました。1日目は木版画の歴史や道具の紹介を受けてから、まっさらな版木で基本的な摺り方を練習し、少ない色使いと摺り方だけで幅広い表現ができることを実感。2日目はストライプ状に彫られた長方形の版木をつかい制作に入りました。版木を反転させて摺り重ねることで新しいストライプが現れます。だんだんとコツを掴んでいった参加者は、終盤では作業スピードも上がり納得いくまで何枚も摺り上げていきました。最後に成果物を一堂に並べて鑑賞。同じサイズで似たようなストライプの版木でも、それぞれ個性豊かな色彩の重なりが味わえる作品がうまれました。

開催日時/9月23日(日)・9月24日(月・祝) 各日13:30~16:30  
参加者/18歳以上 12人  
講師/岩佐 徹(版画家)

版画の在り方について研究し、さらに発展させ、社会に還元していくことを目指す。水彩画のような柔らかな色彩表現と幅広い摺りの技法をあわせた作品を、数多くの個展やグループ展、地域アートプロジェクトで発表。  
参加費/1,000円



## アートさんぽ

歴史的建造物や地域産業・文化財だけでなく、身近な場所をめぐりながら新しい視点を発見するためのツアーです。

### 川口モダン建築探訪

ものづくりのまち川口には、その歴史を伝える特徴的な建物がいくつも残されています。県内の近代建築に詳しい講師に見どころをききながら、明治~昭和期に建てられた和洋折衷住宅を訪ね歩きました。「旧田中家住宅」は、かつて栄えた味噌醸造業ゆかりの建物。格子状の天井や上げ下げ窓などに、大正時代の建築の特徴がよく表れています。明治時代建設の「旧鋳物問屋鍋平別邸」は、輸入ガラスや銘木を多用した座敷まわりなどに、鋳物業の隆盛ぶりを見ることができます。これら市指定の文化財建築の他に、鋳物業に関係する名士のお宅も2軒、特別に見学しました。色彩豊かなスタンドグラスや組子細工の書院など、贅を凝らした意匠が、先祖からの贈り物として大切に受け継がれています。建物に刻まれた、まちの歴史と往時の人々の豊かな暮らしに触れ、川口の魅力を再発見できました。

開催日時/10月21日(日) 13:00~16:30  
参加者/18歳以上 13人  
講師/伊豆井秀一(元埼玉県立近代美術館首席学芸主任)

1949年生まれ。埼玉県立博物館、埼玉県教育局生涯学習課、埼玉県立近代美術館を経る。長年にわたって県内や都内の建築ツアーを実施し、取材した建物は500軒を超える。専門は近・現代日本美術。



## やさしい鑑賞講座

各分野における専門家を講師に招きアートについて「観る・知る」ための講座です。



### 名品でたどるヨーロッパのやきもの

人々の生活と密接にかかわってきた陶磁器。今回は西洋にスポットを当て、その成り立ち、歴史を追う講座を開催しました。古代地中海世界、ヨーロッパ中世とイスラム、西洋各国(スペイン、イタリア、オランダ、ドイツ、フランス、イギリス)の特徴と背景を解説。ひとつの瓶にたくさんの差し口を設けたオランダのチューリップ瓶など珍しいかたちをしたものをはじめ、視覚的に楽しめる特徴的な造形のやきものや、東洋の陶磁器蒐集から自国での磁器製造を目指しマイセンを立ち上げたドイツの歴史など、数多くの作品とその歴史が紹介されました。普段からやきものに関心を持っている参加者も、いままで見たことのないような作品に触れる機会となりました。

開催日時/9月22日(土) 14:00~16:00  
参加者/21人  
講師/大平雅巳(西洋陶磁史家)

早稲田大学第一文学部美術史学専攻卒。長年、美術専門の編集者として陶磁器関係の書籍編集に携わったから、ヨーロッパ陶磁史を専門に研究し、とくにその文化的側面について執筆活動を続けている。  
参加費/300円



訪問地/旧田中家住宅・旧鋳物問屋鍋平別邸(川口市母子・父子福祉センター)ほか主に金山町近辺  
参加費/500円(路線バス乗車費別途)



# 地域・学校連携(共催)事業

## 展覧会

### 第13回 川口市美術家協会選抜展

2018年6月20日(水)~7月1日(日)

主催/川口市美術家協会

川口市美術家協会の各部門から選抜された会員の秀作展です。日本画10点、洋画36点、彫刻12点、工芸22点、書29点、写真17点(合計126点)の展示を行いました。



### 第27回 水道ポスターコンクール 入賞作品展示会

2018年9月12日(水)~17日(月・祝)

主催/川口市水道局

コンクールは平成4年度より小学4年生を対象に水道への理解と学習の機会をひろげるために毎年開催。今年度は27校2094点の力作が集まり、入賞・佳作の62点が展示されました。



### 中学生のART CLUB展

2019年1月26日(土)~2月3日(日)

主催/川口市教育委員会

市内中学校24校の美術部およびそれに類似する部活動の発表展示。日頃から取り組んでいるイラストレーションやポスターだけでなく、本展にむけての共同制作なども公開しました。



### 川口の図工美術まなび展

2019年2月16日(土)~24日(日)

主催/川口市教育委員会

学年末の発表会として、川口市立小・中・高校における図工・美術での授業の成果を展示し、さらに各種コンクールなどで受賞した作品を紹介しました。



### 川口市小・中・高校硬筆展覧会

2018年7月4日(水)~8日(日)

主催/川口市教育研究会 書写研究部

川口市内小・中・高校の児童生徒の書写・書道教育の振興をはかるために毎年開催しています。各校の優秀作品ならびに県展覧会出展・入賞作品を一室に展示し、多くの鑑賞者でにぎわいました。



### 第53回 川口市特別支援学級合同作品展

2018年12月12日(水)~16日(日)

主催/川口市教育委員会

市内小学校19校、中学校12校の特別支援学級の児童生徒が制作した絵画や手芸などを展示しました。



### 川口市小・中・高校書きぞめ展覧会

2019年2月6日(水)~11日(月・祝)

主催/川口市教育研究会 書写研究部

川口市内小・中・高校の児童生徒の書写・書道教育の振興を図るために毎年開催。各校の優秀作品ならびに県展覧会出展・入賞作品を一室に展示しました。



## 研修・実習

### 各種研修・実習などへの協力

川口市が推進している市内中学生の社会体験事業「きらり川口夢わ〜く」を中心に、中・高・大学生の職場体験およびインターンシップ事業、各種教員研修などの受け入れを行っています。

実績/きらり川口夢わ〜く(川口市立幸並中学校・川口市立戸塚西中学校)  
高等学校現場実習事業(埼玉県立新座総合技術高等学校)





# アトリア・サポートスタッフ

(アートボランティア登録制度)

年間を通して多くの事業を開催する当ギャラリーでは、それを支えてくださるボランティアの方々が活動しています。ワークショップや講座などで参加者の方に寄り添い一緒に創作活動に参加したり、企画提案からスタッフとともにミーティングを行い実施までつなげるなど、お手伝いとどまらない主体的な活動を目指しています。登録は4~5月に行い、活動期間を1年としています(更新可/中学生以上)。幅広い年齢層・職業の方が集まり、アートを通して様々な交流を行い、かけがえのない時間や経験を共有しています。

## 主な活動内容

### ワークショップや講座等の運営サポート

ワークショップや講座では参加者に寄り添いながらそれぞれの楽しみを見つけるサポートを行います。技術や知識は重要ではありません。自身も楽しみながら参加をすることで感動を発見し、満足感につながる時間・空間の共有を目指します。また一般を対象としている実技講座等では、参加者に積極的に声をかけて実現したい表現を引き出すなど、交流を大切にしながら制作のためのサポートを行います。主体的に企画を提案し運営にかかわることもあります。

### 展覧会、ライブラリーなど展示物に関するサポート

企画展の搬入・設営・撤去のお手伝い、またミニライブラリーに置く本の整理・展示など、館内で展示・設置する一部の作品や書籍に関するサポートも行っています。

### 月例会

月に1度程度のペースで今後の活動方針や内容に関して話し合いを行うミーティングを設けています。これまでの活動で気づいたこと・これからやってみたいこと・スタッフとのやりとりなどを共有し、より良い活動へとつなげます。自身の興味にあわせて活動を行っているサポートスタッフが多く集まり、意見を交換する機会です。

## 登録者数

平成30年度	17人(平成31年3月現在)
--------	----------------



# 貸しギャラリー事業

市民をはじめとした一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくため、館内の展示室およびスタジオをお貸出ししています。今年度は展覧会などで17件ご利用いただきました。

※一覧はP.22を参照ください。



〔「追悼 藍型染 寿子の布」展〕



〔「川口で楽しく暮らす会」15周年記念 平家物語にちなむアートとパフォーマンス〕

## 展示空間

### 展示室 Exhibition Space

どなたでも気軽に立ち寄れる企画展示や市民のアート作品発表の場です。ゆったりとした空間(天井高5m)で作品発表や鑑賞を楽しむことができます。可動壁により2室に分けられ、小品から大型作品まで様々な展示が可能です。

### スタジオ Studio

ワークショップや講座など様々な美術活動を行う場所です。屋外との一体感があるこの空間は創作活動の幅を大きくひろげます。

### ホワイエ/ウッドデッキ Foyer/Wood Deck

アートパークの景観と喫茶を楽しみながら休憩できる場所です。また、ウッドデッキはワークショップなどの活動の場にもなります。

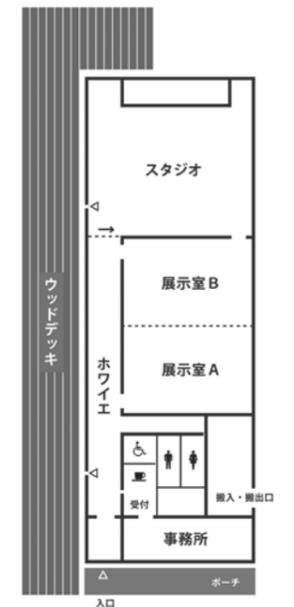
## フロアマップ

展示室A/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m  
展示室B/77.5㎡・壁面の長さ 計29.1m  
スタジオ/195㎡・壁面の長さ 計21.2m  
ピクチャーレールの高さ/展示室3.5m・その他4.8m

## 利用料

	市内在住・在勤・在学	左記以外
展示室A	10,280円	15,400円
展示室B	10,280円	15,400円
スタジオ	20,500円	30,800円

※料金は1日あたり  
※貸出は展示室は1週間ごと、スタジオは1日ごと



## 利用申込

申込は利用期日の1年前から募集を受付しています。専用の「貸しギャラリー申込書」に必要事項を記入のうえ当ギャラリーへ持参してください。郵送・FAXでも受付しています。申込書は、当ギャラリーの受付で配布するほか公式ホームページ(<http://www.atlia.jp>)からダウンロードすることもできます。※申込多数の場合は公開抽選にて決定します。尚、公開抽選は申込期間の翌月(原則第1日曜日)に行います。

平成 30 年度 実施事業件数・利用者数一覧

事業名(企画展)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
春の企画展 地域のなかのアートな居場所 Aplus×ATLIA	前期：21 後期：17	2,078
夏の企画展 第7回 新鋭作家展 見しらぬ故郷／なじみの異郷	44	1,128
第8回公募 新鋭作家展 二次審査(プレゼンテーション展示公開)	15	745
秋の企画展 第13回 アーティスト・イン・スクール 樹々あそぶ庭々 (講師作品展は10月27日～12月9日、成果発表展は11月10日～12月9日)	38	1,870
新春企画展 アートな年賀状展2019	12	1,969
2019年度 春の企画展 絵画展...なのか? (会期は3月21日～5月12日。4月以降の集計は令和元年度年報に記載)	10	499
小計	157	8,289
事業名(地域・教育機関連携)	開催日数(日)	鑑賞者数(人)
第13回 川口市美術家協会選抜展	11	1,249
川口市小・中・高校硬筆展覧会	5	6,112
第27回 水道ポスターコンクール入賞作品展示会	6	192
第53回 川口市特別支援学級合同作品展	5	1,339
中学生のART CLUB展	8	1,184
川口市小・中・高校書きぞめ展覧会	6	4,702
川口の図工美術まなび展	8	2,154
小計	49	16,932
合計	206	25,221

事業分野	件数	開催日数(日)	参加者数(人)
ワークショップ	2	2	32
たのしい実技講座	1	2	12
やさしい鑑賞講座	1	1	21
アートさんぽ	1	1	13
企画展関連イベント ※WS、鑑賞講座、公開制作、 ギャラリートーク、アーティストトークなど	24	28	1,039
合計	29	34	1,117

※2018年4月1日～2019年3月31日に実施した事業の集計です。

■貸しギャラリー利用

展覧会名	展示室区分	利用日数(日)	鑑賞者数(人)
二田原英二彫刻展	スタジオ	1	39
深呼吸～うずまく海を抱く	展示室A	6	161
大屋喜代子作品展	展示室A・B	6	215
齋藤元男写真展「世界遺産 遥かなり」	展示室A	6	313
第2回 型染展／高松悦子	展示室B	6	215
「追悼 藍型染 寿子の布」展	スタジオ	6	358
Think Square「水陸両用の生き物展」	展示室A	6	98
大木利子(油彩)展	展示室B	6	273
LEE HYUNOK 個展	展示室A	5	299
第1回 グループ 快 作品展	展示室B	5	289
第29回 川口市工芸展	スタジオ	5	529
星野富弘 花と詩のアート展	展示室A・B・スタジオ	7	2,422
第1回 金川昌司写真倶楽部写真展	展示室A・B	5	241
ラッキーワイド造形の世界2018	スタジオ	5	305
第53回 川口市小学生図画コンクール	展示室A・B	6	209
第13回 小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会	展示室A・B	7	2,261
「川口で楽しく暮らす会」15周年記念 平家物語にちなむアートとパフォーマンス	スタジオ	2	400
計		90 ※延べ日数128	8,627

年間開館日数	利用者(来館者)	月平均
271日	55,100人	4,592人

発行物

平成30年度 年間スケジュール

企画展やワークショップなどの情報をコンパクトにまとめて紹介しています。

仕様/A4変形サイズ・カラー・4つ折り  
グラフィックデザイン/伊藤ヒロコ(Lallasoo Poopo Lab.)



平成30年度 アトリアニュース

隔月毎に企画展やワークショップなどの情報をまとめて紹介。館内はもちろん市内を中心に近隣の文化施設などに配布しています。

仕様/A3サイズ・カラー・2つ折り  
グラフィックデザイン/古谷悠子



春の企画展 報告書

『地域のなかのアートな居場所 Aplus×ATLIA』

地域の人々を巻き込みながら活動するアーティスト団体「アプリュス」の作品展と会期中のイベントの様子、アプリュスメンバーによる総括などを掲載しました。

発行/2018年6月 仕様/B5サイズ・カラー・8ページ(英訳あり)  
グラフィックデザイン/古谷悠子



夏の企画展 報告書

第7回 新鋭作家展 『見しらぬ故郷／なじみの異郷』

全国公募で選出された新鋭作家の制作に、鑑賞者・参加者が加わった企画展の報告書。公募の選出者と当館担当者がともに展覧会をつくりあげる道のり、多くの人々と生み出した成果を掲載しました。

発行/2018年10月 仕様/B5サイズ・カラー・8ページ  
グラフィックデザイン/大崎善治(SakiSaki)



秋の企画展 報告書

『樹々あそぶ庭々』

展覧会や学校での授業など、多くの要素が含まれる当事業の内容と経過をまとめ、広く一般に周知するために作成。講師、対象児童、学校教諭(学級担任)、当館担当者によるコメントを併せて掲載しました。

発行/2019年2月 仕様/B5サイズ・カラー・12ページ  
グラフィックデザイン/中野(Lallasoo Poopo Lab.)



平成29年度 事業年報

事業を総括した年報。企画展をはじめ、ワークショップ・講座、関連イベントもすべて収録。開催時の詳しい様子を、充実したカラー写真とともに紹介しています。

発行/2018年8月 仕様/A4サイズ・カラー・28ページ  
グラフィックデザイン/大崎善治(SakiSaki)



川口市立アートギャラリー・アトリア スタッフ ※2019年3月31日現在

職員	青木真吾(館長) 渡邊浩之 秋田美緒(学芸員) 茂木阿季(学芸員)
非常勤職員	三井知行(美術専門員/学芸員) 小野寺 茜(美術専門補助員/学芸員) 佐々木ひろこ(美術専門補助員) 柴澤 希(美術専門補助員)

アドバイザー 小野寺優元

---

## 利用案内

### 開館時間

10:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）

※企画展開催中の土曜日は20:00まで開館する場合があります。

### 観覧料

観覧会によって異なります。

### 休館日

月曜日 ※月曜日が祝日の場合はその翌平日

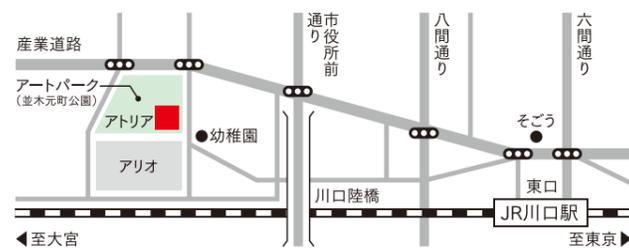
年末年始（12月29日～1月3日）

施設整備および展示入替期間

### アクセス

JR川口駅（京浜東北線）東口から徒歩約8分

### アクセスマップ



### カフェ

土・日・祝日／10:00～18:00

---

## 川口市立アートギャラリー・アトリア

Annual Report 2018.4～2019.3

平成30年度 事業年報

### 発行日

令和元(2019)年8月31日

### 発行

川口市立アートギャラリー・アトリア ©2019

332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76

TEL 048-253-0222

FAX 048-240-0525

URL <http://www.atlia.jp/>

### アトリアスタッフ

青木真吾・渡邊浩之・秋田美緒・茂木阿季・三井知行・小野寺 茜・佐々木ひろこ・柴澤 希

### 編集

小野寺 茜（川口市立アートギャラリー・アトリア）

### デザイン

大崎善治（SakiSaki）

### 写真

本文内で使用している写真には、撮影者名をイニシャルで示しています。

K.K.: 金田幸三、M.O.: 長田水紀、M.S.: 末正真礼生

※その他表示のないものはアトリアスタッフが撮影しています。

### 印刷・製本

株式会社グラフィック

